

Japanese A: language and literature – Higher level – Paper 1
Japonais A : langue et littérature – Niveau supérieur – Épreuve 1
Japonés A: lengua y literatura – Nivel superior – Prueba 1

Wednesday 4 May 2016 (afternoon)
Mercredi 4 mai 2016 (après-midi)
Miércoles 4 de mayo de 2016 (tarde)

2 hours / 2 heures / 2 horas

Instructions to candidates

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Question 1 consists of two texts for comparative analysis.
- Question 2 consists of two texts for comparative analysis.
- Choose either question 1 or question 2. Write one comparative textual analysis.
- The maximum mark for this examination paper is **[20 marks]**.

Instructions destinées aux candidats

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- La question 1 comporte deux textes pour l'analyse comparative.
- La question 2 comporte deux textes pour l'analyse comparative.
- Choisissez soit la question 1, soit la question 2. Rédigez une analyse comparative de textes.
- Le nombre maximum de points pour cette épreuve d'examen est de **[20 points]**.

Instrucciones para los alumnos

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- En la pregunta 1 hay dos textos para el análisis comparativo.
- En la pregunta 2 hay dos textos para el análisis comparativo.
- Elija la pregunta 1 o la pregunta 2. Escriba un análisis comparativo de los textos.
- La puntuación máxima para esta prueba de examen es **[20 puntos]**.

Blank page
Page vierge
Página en blanco

問題1か問題2のどちらかを選び、答えなさい。

- 1. 次の2つのテキストを分析して、比較対照しなさい。2つのテキストの共通点と相違点、また文脈、読者層、目的、そして形式や文体の特徴の重要性についても言及しなさい。

テキスト A

社会の生きた皮膚——ひとはいつ服を着はじめるか？

ひとは、いつ、服を着はじめるのだろうか。生まれてすぐではない。生まれてすぐ、ひとは布でくまられる。でも、それはじぶんで服を着ることとはちがう。じぶんが他人の眼にどんなふうに映っているか？——そういうことを意識しだしたとき、つまり他人の視線にまで想像力がおよびだしたとき、ぼくらははじめて服を選んで着る。ファッションのはじまりだ。「思春期」とおとなたちが呼ぶころである。子供服もすぐファッションブルになってきたなどとおとなたちは言うが、そんなことはあまり意味がない。あれは（子どもについての）おとなの意識をなぞっているだけであって、「思春期」前の子どもたちはそのための着せ替え人形ではない。子どもたちは（子ども）という制服を着せられるのであって、ファッションの愉しみはこの場合、着るがわにはない。

5 10 15 20

だから、服を着るといふのは、与えられた服をわざと、ちぐはぐに、だらしなく着くすことからはじまるしかない。ぼくらの国では、変形の学生服というのがたぶん最初のファッションであるはずだ。でも、どうして変形ということからファッションははじまるんだろう。

じぶんがどういう存在なのか、ぼくらはそれが知りたくてもすぐにはわからない。あいつとぼくはどっちがうのか、なぜあいつにはあいつができて、ぼくにはできないのか、なぜあいつはスイスイものをくぐりぬけていくのにぼくにはそれができないのか、なぜあいつは何でもおもしろそうにやっているのにぼくには無理なのか、なぜあいつがもててぼくはだれにも声をかけられないのか。それがよくわからない。わからないままに、何かおもしろくない、気にくわれない、うまくいかない……そういう気分だけはつきりある。だれのせい？ それかわからない。気にくわれない相手も理由もわからないけれど、おもしろくないという気分だけはつきりしている。

そういうやりきれない気分、ちよつと大げさにいえば時代への違和、時代から掃きだされているようなやりきれない気分が、理由がわからないまま、気分、動作に、からだの表面に出してしまうのだ。

鷺田清一『ちぐはぐな身体——ファッションって何？』（二〇〇五）より抜粋

テキスト B

ある静かな夜に

何処か遠くの、小さな、あるいは大きな町に
君は住んでいた。

そこで人々が殺し合うのを見たかもしれないし、
自然の驚異に震えたかもしれない。

- 5 それとも、失うものなんて何もないような
至福の時を過ごしたのかもしれない。
そういったことで僕は君を詮索しようとは思わないし、
君と僕は実際には出会ってないのだから、
それは無理なことだ。

- 10 ただ、よく僕が考えるのは、
この世界にもしかしたら何人かの自分が居て、
時間や場所を超えて時々同じ気持ちに
なってるんじゃないか、ということなんだ。
それは、オカルトめいた多重人格や

- 15 輪廻転生なんかじゃなくて、
なんてゆうか、もっと現実的なことなんだ。
だから、この絵を描いたのは、
此処に居る僕かもしれないけど、
あの絵は君が描いたのかもしれない。

- 20 時々、自分の作った物が、そんなふうに
まるで人格を持って自分に語りかけてくる。



Monkey in Silence

あとがき

始まりは雨の降りしきる心の中のちっぽけな水たまりだった。小さな自分の世界でおたまじゃくしみたいに泳いでいた。雨はずっと降り続いて、水たまりを少しずつ広げて、となりの水たまりとくっつけてくれた。それはどんどんつながって行って、
25 自分が追いつけない時もあったけど、嬉しくもあったことは確かだ。そんな感じでこの本はできあがった。

この本の中に収められた文章はほとんどが10年間の日記から選んだもので、今再び読み返すと泣きたくなる位恥ずかしい表現もあるのだけれど、結局自分自身は何も変わってない気がする。

30 そのへんは自分でもよくわからないのだけれど、とにかく今まで出会った人々や風景に感謝しながら、僕をこの世に送り出してくれた両親にも素直にありがとうと言いたい。僕が今ここにいるのはあなた達のおかげです。〈略〉

奈良美智* 『深い深い水たまり』(1997)より抜粋

* ^{よしとも}奈良美智：日本出身・ドイツ在住のアーティスト。トレードマークとなっている独特の女の子や犬の絵は絵画、彫刻など様々な形で世界の人々に愛されている。

2. 次の2つのテキストを分析して、比較対照しなさい。2つのテキストの共通点と相違点、また文脈、読者層、目的、そして形式や文体の特徴の重要性についても言及しなさい。

テキスト C

15

二つの世界の呼応と調和がうまくいっていると、毎日を過すのはずっと楽になる。心の力をよけいなことに使う必要がなくなる。
水の味がわかり、人を怒らせることが少なくなる。
星を正しく見るのはむずかしいが、上手になればそれだけの効果があがるだろう。
星ではなく、せせらぎや、セミ時雨でもいいのだけれども。〈略〉

池澤夏樹 『スタイル・ライフ』 (一九九二) より抜粋

10

明の世界を想像してみることができる。きみの意識は二つの世界の境界の上にいる。
大事なのは、山脈や、人や、染色工場や、セミ時雨などからなる外の世界と、きみの中にある広い世界との間に連絡をつけること、一步の距離をおいて並び立つ二つの世界の呼応と調和をはかることだ。
たとえば、星を見るとかして。

5

この世界がきみのために存在すると思っではいけない。世界はきみを入れる容器ではない。
世界ときみは、二本の木が並んで立つように、どちらも寄りかかることなく、それぞれまっすぐに立っている。
きみは自分のそばに世界という立派な木があることを知っている。それを喜んでいる。世界の方はあまりきみのことを考えていないかもしれない。

テキスト D

国立環境研究所について	研究紹介	社会貢献・外部連携	データベース	刊行物	広報・イベント
-------------	------	-----------	--------	-----	---------

トップページ>刊行物>刊行物一覧>国立環境研究所ニュース>国環研ニュース 27巻>自然共生という思想 (2008年度 27巻2号)

自然共生という思想

【環境問題基礎知識】

大場 真

5 この「自然と人間との共生」（自然共生）というフレーズは、1980年代から使われるようになり、1991年の「国際花と緑の博覧会」では基本理念として、また1994年の「第一次環境基本計画」では長期目標、2007年の「21世紀環境立国戦略」では社会的取り組みの一つとして定められています。また2008年北海道洞爺湖サミットのロゴマークも「自然環境と

10 生物の世界では、アブラムシ（アリマキ）は護衛するアリに甘露を出し、シロアリやウシは自分では消化できない食物を分解する微生物をその消化管に住まわせたりする現象が見られます。異なった生物種間において利益を与えあう関係を「相利共生」と生物学では呼びます。しかし、生物における利益といったものの推定のしにくさやその関係性の変化のしやすさのため、より広くとらえて、個体や種の存続に関して異なる生物がお互いに関わり合う現象のことを「共生」と呼ぶ場合もあります。さらにより広い視点から見ると、生物と生物、生物

15 と環境の関係は網の目のように広がっていることはよく知られています。食う－食われるなどを含む、この「生態系」（エコシステム）と呼ばれる生きるための依存関係は、それ自体がある種の自律性を持ち、「内部や外部が多少変化しても大きく変動しない一方で、限度を超えた変化が加わると断絶してしまう」という性質も持ちます。

20 生態系を大規模に改変できる能力を持ってしまった人間は、自身とその社会だけではなく、生態系にも配慮して行動を起こす必要があると考えられます。農地や都市などへの土地利用の転換、水や空気・化石燃料などの天然の資源の消費、汚染物質の放出、また森林や魚群などの生物の資源の利用などが、生態系の復元力を越えた大きさであったり、あるいはそれを維持するための人為的管理が不適切であったりすれば、生態系の劣化や破壊を引き起こすだけでなく、人間自身の存続基盤すら危うくする可能性があります。人間活動の生態系への影響を科学的に定量化する試みとして、生態系からどの程度、物質やサービスを楽しんでいるかという推定や、負荷をどれだけかけているかということの推定などがあります。森林は様々な恩恵を人間に与えてくれていますが、まだ人間が気づいていないサービスもあると考えられています。また自然共生と同様によく聞くようになった「持続可能な社会（あるいは開発）」という言葉は、この生態系サービスの持続的な利用と管理という考え方を基調としています。

25

www.nies.go.jp (2008) より抜粋

* 天人合一：中国の世界観の一つで、人と自然・宇宙を一つの統一体と考えるもの